

令和5年度

学校評価結果報告書  
(中間評価)

広島県立加計高等学校

# 目 次

- 1 令和5年度自己評価シート(中間評価) (様式2) ……1
- 2 令和5年度学校関係者評価シート(年度末評価) (様式4) ……3

令和5年度自己評価シート(中間評価)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	二川 一成	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	-----

1 短期(本年度)経営目標

【短期(本年度)経営目標 ①】進路 生徒個々の資質・能力に応じた進路目標を早期に明確にさせる。	
【本年度行動計画】 定期的できめ細かい個別面談を通じて、個々の資質・能力、進路希望に応じたキャリアカウンセリングとファシリテートを行い、学習意欲や勤労観など進路選択に向けた意欲を喚起する。 [1年]担任…長期休業明け・11月(コース選択) [2年]担任…長期休業明け・11月(科目選択)                      進路…2月～春休み [3年]担任…長期休業明け    担任+進路…4月・6月・10月・12月	評価  A

【短期(本年度)経営目標 ②】生徒育成 生徒会執行部を中心とした自治活動を推進する。	
【本年度行動計画】 行事等を主体的に企画・運営させる。	評価  A

【短期(本年度)経営目標 ③】国際交流 国際交流に関わる活動を推進する。	
【本年度行動計画】 生徒の自主的な集まりである「おもてなし隊」を中心に企画・運営させる。	評価  A

【短期(本年度)経営目標 ④】教務 「授業づくり」等を進め、指導力の向上を図る。	
【本年度行動計画】 校外研修等に参加する。	評価  A

【短期(本年度)経営目標 ⑤】管理職 業務分担の偏りを改善し、職員の時間外勤務を減少させる。	
【本年度行動計画】 情報共有による集団での指導を推進する。	評価  A

【短期(本年度)経営目標 ⑥】探究 探究活動の時間を活用し、地域との連携を深める。	
【本年度行動計画】 商品開発や地域の諸課題解決への提案を行う。	評価  A

【短期(本年度)経営目標 ⑦】生徒育成 地域行事への参加等ボランティア活動を推進する。	
【本年度行動計画】 生徒会を中心に啓発活動を行う。	評価  A

【短期(本年度)経営目標 ⑧】管理職・生徒募集 学校の魅力を発信し、生徒募集につなげる。	
【本年度行動計画】 生徒が中心となって学校の魅力を発信する。	評価  B

※ 学校経営計画に記載している短期(本年度)経営目標の数に応じて表を追加する。

2 中間評価のまとめ

<p>評価結果の分析</p>	<p>①定期的な面談は継続的に実施している。生徒の進路希望を把握するため、各担任や教務と連携し進路希望調査等を行い、個別の指導につなげている。進路講演会や、進路相談会、各種 ICT 端末・サービス等も活用し、生徒自身が進路を考える機会を複数回設けている。第3学年においては、生徒全員が進路目標を明確化した。</p> <p>②文化祭・体育祭等、執行部が中心となって生徒の積極的な活動を行う事ができ、保護者等の来校者も増加した。</p> <p>③おもてなし隊の生徒を中心に充実した国際交流を展開している。ハワイの姉妹校ホノカア高校からの訪問も6月に再開できた。同窓会をはじめとして多くの支援をいただき、8月のハワイの姉妹校への訪問も盛況であった。</p> <p>④今年度は、全教職員に地元小・中学校の研究授業等の日程を案内し、いずれかのタイミングで参加するよう促している。また、地元小・中学校が取り組んでいる協調学習（ジグソー法）についての研修を校内で行い、小学校・中学校・高校とつながりを意識したものになるようにしていく。</p> <p>⑤超過勤務 45 時間／月以下の職員の割合は9月時点で 80%（目標 70%）である。夏季休業中の8月については、100%であり、計画的な休暇の取得はできている。</p> <p>⑥概ね当初の計画通り進められている。今年度はみらい株式会社と包括提携を結んだことで、積極的な意見交流等が行えている。今後も、商品開発やマルシェ活動等を行い、探究活動を充実したものにしていく。</p> <p>⑦昨年より依頼も増えているが、黎明館とも連携し概ね進められている。</p> <p>⑧生徒が中心となって地域みらい留学フェスタ、オープンスクール、中学校訪問、SNS など充実した情報発信ができています。その成果として、地元中学生の志願者が昨年に比較して確実に増加している。一方町外中学生の訪問は減少している。</p>
<p>今後の改善方策</p>	<p>①引き続き各担任や各分掌と綿密に連携をとり、個別の指導を継続していく。スタディサプリ等のサービスをよりよく活用するため、利用データの活用や、効果的な活用方法の周知を行う。</p> <p>②「蓄積と伝承」を合言葉に、先輩から後輩へのバトンの受け渡しを意識させ生徒間のディスカッションを継続させていく。</p> <p>③今年度新たに10月に韓国の姉妹校ソラク高校への訪問を行う予定である。</p> <p>④今後も引き続き、地元小・中学校の研究授業等に参加していく。また、そこでの研修内容等については、校内で積極的に交流をしていく。</p> <p>⑤情報共有による組織的な指導を推進するために、教職員必携等の活用と校内の整理整頓に努め、お互いが協力して業務改善に繋げて時間外勤務の縮減を進めていく。</p> <p>⑥みらい株式会社と協力・連携を密に図っていく。また、今年度は探究活動のまとめを地域に広く周知するため、成果発表会を開催予定である。発表会に向けて、具体的な提案が行えるよう、探究活動を進めていく。</p> <p>⑦地域と協力して行うことができた。また、本校コーディネーター（みらい株式会社）とも、積極的に連携を図り、地域との活動が充実したものとなるよう取り組む。</p> <p>⑧コンスタントでタイムリーな情報発信に心がけ、HPの掲載や地域との連携も工夫していく。</p>
<p>学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>新型コロナウイルス感染対策のためできなかった行事ができるようになり、地域等でも多くの取組が復活して企画されるようになっている。これらを地域と連携して実施していくにあたり、体制について改善しそれぞれの役割を明確にしていける必要がある。学校、町、黎明館(寮)等と連携を密にして本校の取組により町全体が活性化していくように工夫してチャレンジしていく。</p>

## 令和5年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和5年10月31日

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	二川 一成	全・定・通	(本)分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	------

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A 7人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校の利点を生かして、生徒一人一人の良さに着目し、実行可能な目標を設定されている。</li> <li>・生徒一人ひとりに対して、面談等を通じての現状把握と目標設定等が進められている</li> <li>・のは良いことだと思うし、今後も継続していただきたい。</li> <li>・目標、指標、評価は関連性が考慮され適切に改定されている。</li> <li>・生徒の資質、能力等に応じた目標が的確に計画されそれに伴う指標の設定が適切である。</li> </ul>
計画の進捗状況の評価の適切さ	A 6人 B 1人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が中心となって自主的に活動する行事が多く、生徒たち自身の意欲・頑張りが見てとれ、すごいと感じた。</li> <li>・計画に沿って多くの行事を行っておられる。地域やみらい株式会社との連携もスムーズで進捗状況を適切に管理・評価されている。</li> <li>・中間評価においても、学年の中間地点において定量的に計ることができる指標もあるのではないかと。</li> <li>・計画の設定に応じた進捗状況の把握と評価は適切に行われている。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	A 6人 B 1人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身の目標達成に向け、より具体的且つ粘り強い指導をお願いしたい。</li> <li>・そして、自らが選んだ道を全うできる“学力と人間力”を醸成してほしい。</li> <li>・生徒の意見や活動を重視しながら進めておられる。生徒が企画に中心になって参加することで充実したものになっている。「蓄積と伝承」上手に引き継がれており、今後の活動も大いに期待している。</li> <li>・目標に向けた行動計画は適切である。</li> <li>・教育現場にある教職員全員で目標達成に向けた取組がされている。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	A 6人 B 1人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の視点のみならず課題、その解決方法等についても分析が進められている。</li> <li>・適切に分析されており、それぞれの取組の充実ぶりが伝わってくる。</li> <li>・中間評価において、計ることができる指標についての取扱について検討が必要である。</li> <li>・それぞれの計画目標に対する分析が適切に行われている。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	A 6人 B 1人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生と生徒がいっしょに目標達成へ向けて取り組んでおり、今後の改善方策も適切に行われている。</li> <li>・みらい株式会社との協力・連携の広がりに期待している。</li> <li>・個別の取組に対して、今後の方向性や方策が適切にまとめられている。</li> <li>・中間評価を定量的に計ることにより、年度後半に生かせることもあると考える。</li> <li>・目標の達成のみならずその後の方策についても考慮されている。</li> </ul>
総合評価	A 4人 B 3人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちには、学力のみならず人間力・人としてのやさしさをさらに培ってほしい。</li> <li>・加計高校での取組を、町内でも多くの方々が頼もしく感じておられると思うので、これからも引き続き頑張ってもらいたい。</li> <li>・多くの取組を実施され、それらを生徒中心に活動させておられることに対して、頭が下がります。今後も小中学生が憧れる加計高校であってほしいと思います。</li> <li>・韓国ソラク高校との交流、ハワイへの短期留学等コロナ過の停滞を覆す取組は未来への明るい報告</li> <li>・生徒会を中心としたボランティアと探究活動の充実を期待している。</li> <li>・教職員一丸となって生徒のため学校のために尽力されており感謝しています。</li> </ul>

A とても適切である。 B 概ね適切である。 C あまり適切でない。 D まったく適切でない。 H 判定できない。